

重点8 就学前（幼稚園）教育の充実

1 指導方法の工夫改善

ねらい

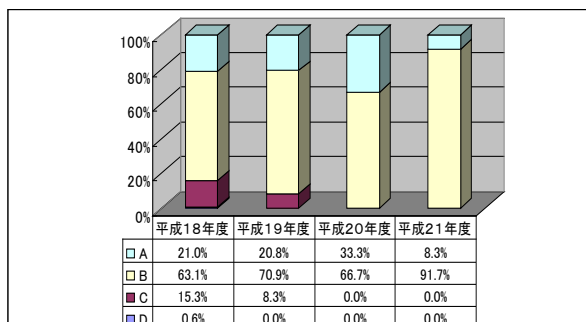
幼稚園では、幼児の欲求や自発性、好奇心などを重視した遊びや体験を通した総合的な指導によって、人間形成の基礎となる豊かな心情や想像力、ものごとに自分からかかわろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度の基礎を培うことをねらいとしています。

そのために、一人一人の幼児の特性に応じた指導をきめ細かく進めるとともに、道徳性の芽生えを培う活動や身近な人や環境とのかかわりを重視した保育のダイナミックな展開に努めています。

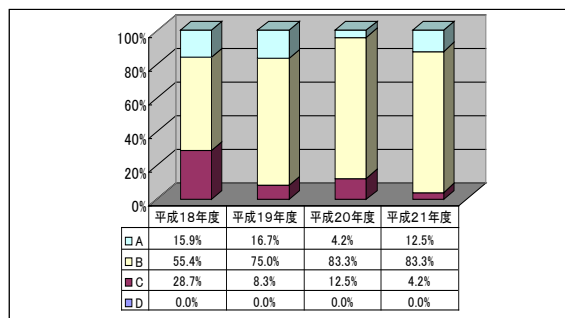
現状と課題

○ 平成21年度の市内教職員のアンケート結果(24園)

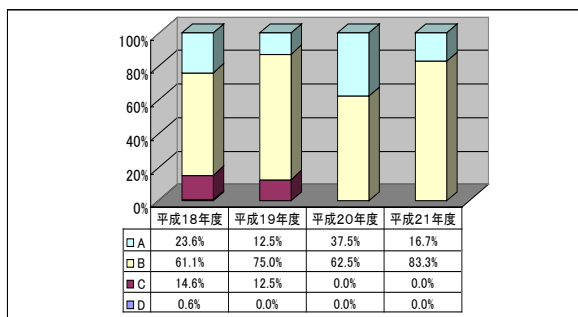
Q1：一人一人の幼児の特性に応じた指導の工夫を行ったか。



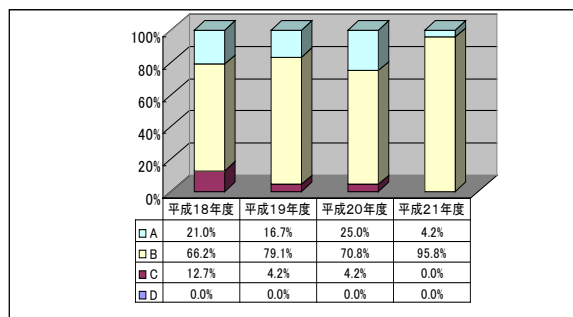
Q2：幼児期にふさわしい生活を展開できる環境構成の工夫を行ったか。



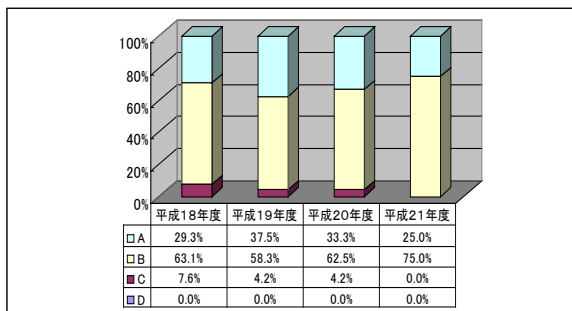
Q3：身近な人や環境とのかかわりを重視した保育を行ったか。



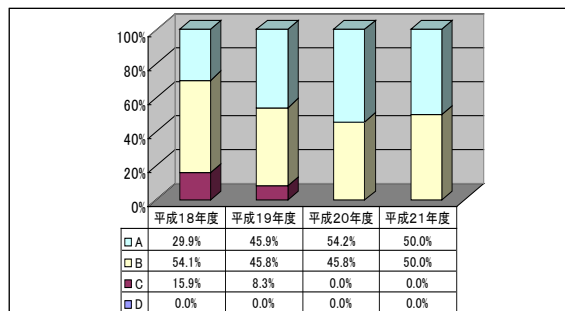
Q4：道徳性の芽生えを培うための指導を行ったか。



Q5：基本的な生活習慣、社会生活上のルールなどの定着を図ったか。



Q6：健康・体力向上のための指導を行ったか。



【「A」：十分 「B」：おおむね十分 「C」：やや不十分 「D」：不十分】

○ **昨年度より十分・おおむね十分との回答が100%に到達しているもの**

Q1：一人一人の幼児の特性に応じた指導の工夫を行ったかについては、指導方法の工夫や改善に向けた取組が積極的に進められているといえます。

Q3：身近な人や環境とのかかわりを重視した保育については、共に生きる力の育成にむけ、同年齢・異年齢・地域の人など身近な人とのかかわりに重点をおいた保育や、飼育栽培・園外保育など自然にふれる機会を積極的に取り入れるなどの工夫をしてきた成果と言えます。

Q6：健康・体力向上のための指導を行ったかについては、その重要性が定着して取組が強化されたことがわかります。

○ **十分・おおむね十分との回答が100%に到達したもの**

Q4：道徳性の芽生えを培うための指導については、道徳性の指導の重要性を高く評価し、保育にあたっていることがわかります。

Q5：基本的な生活習慣、社会生活上のルールについては、日常保育での指導の徹底と、保護者との連携が定着した取組が進められたことがわかります。

○ **やや不十分という回答のあるもの**

Q2：環境構成については、やや不十分という園があるものの、平成20年度より8.3ポイント減少しており、環境の工夫の大切さについての研修を重視し努力されたといえます。

○ **幼稚園での特別支援教育の取組について**

支援を必要とする幼児に対する取組では、教師一人一人がその資質向上を目指し研修を積み、園内研修も充実してきています。これは、各園での自己評価において、十分・おおむね十分との回答が100%に到達していることからわかります。研修は保育園とともに就学前教育の在り方として進めています。

○ **幼稚園での食育活動の取組について**

健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中でみんなと同じものを食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味・関心を持ったりすることで、進んで食べようとする気持ちが育つようにしています。

平成20年度より、家庭弁当を基盤とした週1回デリバリー方式の給食が導入されました。幼児の給食は、安心・安全で栄養バランスのとれたもので、家庭の食育支援にもつながっています。教師は、衛生管理・給食への研鑽に励み、食育の充実を図っています。

今後の方向性

- 一人一人の幼児の特性に応じた指導の工夫及び環境構成の工夫について等、改善に向けて、今後もさらに幼児の活動がそれぞれの発達に意味のあるものとなるように再構成していくことが必要です。そのために、園内研修等を工夫・充実させ、全職員が幼児の成長のために具体的な課題をもって保育に取り組みます。
- 健康で安全な生活習慣や態度の育成及び戸外遊びや運動遊びの充実など、心身が共にたくましく育つよう取組の継続を進めます。
- 教師の専門性を一層高めます。そのうえで遊びの中で子ども同士がかかわりあう機会を大切に、集団のルール等を個々の発達に応じて指導します。また、集団の中で個が発揮できることで、子どもが遊びの充実感を味わえるようにします。
- 幼稚園教育の更なる充実と、一方で保育園とともに就学前教育を進めながら、小学校との連携を深めて、段差のない教育の取組を進めます。